

7 ぶどうの袋かけによる晩腐病防除 (追補)

一袋かけ時期が遅れるときの対策一

(園試・大迫試験地)

晩腐病の一次感染期 (6月下～7月上旬) から、袋かけ (7月中～下旬) まで有機ひ素剤の2～3回連用により防止効果が高まる。袋かけ後の晩腐防除剤は省略できる。

(1) 背景とねらい

晩腐病の発生はぶどうの品質、収量におよぼす影響が大きく、致命的な損害を与えることが多い。

本病に対する袋かけ試験は、昭和55年指導上の参考事項に取り上げられた。その内容は、落花後 (6/下～7/上) 早い時期の防止効果は高く、袋かけ前の晩腐病防除剤の散布が重要であり、それ以降の袋かけ効果は劣るというものであった。

しかし、栽培者は、各種重要作業があり、7月中～下旬まで、袋かけが実施されているのが実態であり、この間の対策が強く望まれていた。

そのため、7月中～下旬に袋かけによる発病防止効果を検討した結果、一応の成果が得られたので参考に供する。

(2) 技術の内容

- 1) 晩腐病の一次感染期 (6月下旬～7月上旬) から、袋かけ (7月中、下旬) まで有機ひ素剤の2～3回連用により防止効果が高まる。
- 2) 袋かけ後の晩腐病防除剤は省略できる。
- 3) 適応地域 県下全域

(3) 指導上の留意事項

- 1) 雨媒による一次感染の防除は重要であり省略しない。
また、袋かけまでの連用防除が発病防止効果を高める。
- 2) 袋かけは雨水が入らないように、ていねいに行う。
- 3) 袋かけ前に摘房、整房、摘粒など果房の手入れを終えること。

(4) 当該事項にかかる試験研究課題名

ぶどうの有袋栽培法 56～57年

(5) 参考文献・資料

岩手県園芸試験場：昭和53年園芸作物の病害に関する試験成績書

岩手園試・大迫試験地： 55 " 試験成績書

" 56 " "

" 57 " "

(6) 試験成績の概要

表-1 試験区の構成

大迫試験地 (S 56~57)

試験区	散布時期		7/上	7/中	7/下	8/上	8/中	8/下
	一次感染期							
1. 7月上旬散布後袋かけ(対照区)	●	△	-	-	-	-	-	-
2. 7月上・中旬散布後袋かけ	●		●	△	-	-	-	-
3. 7月中旬散布後袋かけ	-		●	△	-	-	-	-
4. 7月上・中・下旬散布後袋かけ	●		●		●	△	-	-
5. 7月中・下旬散布後袋かけ	-		●		●	△	-	-
6. 7月下旬散布後袋かけ	-		-		●	△	-	-
7. 慣行防除	●		○		○		○	●
8. 無散布	-		-		-		-	-

※ 晩腐病7月上旬一次感染期、●～ネオアソジン×2,000 -～無散布
 △～袋(ハترون紙) ○～ビスダイセン×1,500

表-2 晩腐病および灰色かび病の発生と品質

大迫試験地 (S 56~57)

試験区	項目	調査	晩腐病発	灰色かび病	糖度	酸度
		房数	病房率%	発病房率%	%	g/100ml
1. 7月上旬散布後袋かけ(対照区)		122	2.5	2.5	17.4	0.62
		69	0	15.9	15.2	0.65
2. 7月上・中旬散布後袋かけ		127	7.9	1.6	14.3	0.67
		74	0	8.1	14.8	0.68
3. 7月中旬散布後袋かけ		179	16.8	1.1	14.3	0.64
		63	0	12.7	15.4	0.66
4. 7月上・中・下旬散布後袋かけ		140	8.6	0.7	14.8	0.60
		126	0.8	11.9	15.0	0.62
5. 7月中・下旬散布後袋かけ		152	32.2	1.3	14.0	0.65
		81	1.2	7.4	15.4	0.62
6. 7月下旬散布後袋かけ		137	15.3	0.7	14.6	0.72
		57	0	1.8	14.6	0.69
7. 慣行防除		110	23.6	4.6	14.4	0.92
		78	5.1	23.1	15.2	0.70
8. 無散布		47	66.0	2.1	14.8	0.88
		122	43.4	12.2	14.8	0.73

※ 上段…56年 収穫10月1日、晩腐病多発年。生育：平年比約10日遅れ。

下段…57年 収穫9月22日

灰色かび病の発生…有袋区は慣行防除区より少発であった。